

# 外岡秀俊 遺稿集

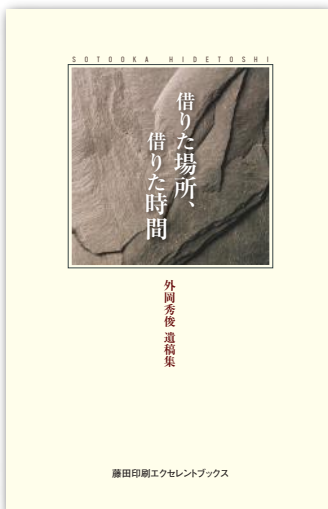
## 『借りた場所、借りた時間』

2023年1月20日刊行 第1刷 B5変型判 212頁 定価2,200円+税 発行：藤田印刷エクセレントブックス

綿密な取材力と冷静な調査力、比類のない解析力——外岡秀俊は、ジャーナリストとして類いまれな資質を発揮する。

錆びたベルトコンベアのアメリカ合衆国、雨傘の捨てられた香港、戦火の舐めつくすユーラシア、外岡の現代社会の分析と展望は鋭利だ。だが、それだけではない。そこに血の通った感性が、埋み火のように熱を放っている。もっと光を、もっと熱を。

魂の小説家・外岡の無言の叫びである。——川村湊（文明批評家）



### 澤田展人

私は、長い年月広い海を泳いだ後、生涯の最後に、生まれた川に遡り上ってくる鮭をちょっとイメージして、外岡にもふるさと回帰の情がはたらいたのだろうかと思った。大手新聞社の組織にいて神経をすり減らす仕事をしてきた外岡が、心のやすらぐ場所としての故郷に帰ってきたようにも感じた。

だが、彼が亡くなってから、札幌での仕事の中味を振り返り、また、私の個人誌『逍遙通信』第1号から第6号までに書いた文章を読んで、以上の私の思いが皮相な理解であることに気づいた。どうやら外岡秀俊という男には、根っから旅する人の気性が宿っており、晩年の札幌生活10年半余といえども、彼の旅のようだった人生の通過点の一つにすぎないものに思われてきたのである。（『逍遙通信』発行人・作家）

### 久間十義

もうお分かりだろうが、この彼の努力は『逍遙通信』第2号の評論『「終わった人」たち——定年小説に未来はあるか』に結実する。私はこの評論に舌を巻いたが、注目したのはもちろん私一人ではなかった。関川夏央さんから連絡があって、「この評論、ぜひ内館牧子さんに読ませたいから、澤田さんに連絡を取ってほしい」というのだ（その後、読んだ内館さんからは「まさしくバキューンと射抜かれた思い」と便りがあつたらしい）。この出来事はもう5、6年も前のことになるが、そうした事情は澤田を介して外岡の耳にも入ったはずで、以後『逍遙通信』に揮う外岡の健筆にはさらに拍車がかかった。（作家）

### 澤井繁男

次にホスピス医療（緩和ケア医療）の取材。舞台は大阪の淀川キリスト教病院（現柏木哲夫理事長、大阪大学名誉教授）。この病院には前述の前野宏が一定の期間ホスピス医療の研修のため勤務していた。前野は北大の工学部卒業後、確かNECに入社した。往時私も在京だったが、ある日夕食を共にすることになった際、いまの会社を辞して北大の医学部を受験したい旨、告白された。こういう過程を経て医師になってゆく例を他にも見知っていたので、それなら頑張ると励ました。外科医となり、もともとクリスチャンだったこともあってか、さまざま経緯を経て、ホスピスに関心を抱き、「淀教」で研修を受けることになった。私は外岡に前野医師を紹介することにした。前野がそのときの『AERA』（昭和63年5月18日、第20号）のコピーをこのたび送ってくれた。外岡らしい一節があるので、ここに掲げておこう。「ホスピス病棟は、ロビーに大きな窓を取り、静かな明るさに満ちている。床に敷き詰められたカーペットが醸す穏やかな雰囲気、せいだらう。フェルメールの室内画のように、時間は緩やかに過ぎ、病棟は薄明に支配されている」。（作家）

目次：

- チョウチンアンコウとA I —
- 「終わった人」たち——定年小説に未来はあるか—
- 星条旗のある空——トランプのアメリカ—
- 屢気楼余聞—
- 帝国の落日——イギリスの昏れ方—
- 借りた場所、借りた時間——過ぎ去り行く香港—
- 賢治と啄木——「北方文化圏」の旅—

### 外岡秀俊（そとおか ひでとし）

1953年 北海道札幌市生まれ。  
1972年 北海道札幌南高等学校を卒業し、東京大学文科I類へ進学。教養課程在学中に初めての小説『白い蝙蝠は飛ぶ』で学友会「銀杏並樹賞」受賞。その後、法学部進学。さらに東京大学新聞研究所でも学ぶ。  
1976年 小説『北帰行』により第13回文藝賞を受賞。  
1977年 東京大学法学部卒業後、朝日新聞社へ入社。学芸部、社会部を経て、ニューヨーク支局員、論説委員、ヨーロッパ総局長から東京本社編集局長を歴任。  
1986年 中原清一郎の筆名で長篇小説『未だ王化に染はず』を発表。  
2011年 朝日新聞社を早期退職。その後は札幌を拠点にジャーナリスト・作家として活動する。  
2014年 文芸誌「文藝」春号に、中原清一郎が外岡秀俊の筆名であることを明かし、長篇小説『カノン』を発表。以後、長篇小説『ドラゴンオブション』、小説集『人の昏れ方』を発表。上記創作の他、ジャーナリスト外岡秀俊として『地震と社会』、『傍観者からの手紙』など多数の著作を残す。  
2021年12月に心不全のため急逝。満68歳。

書店番線	発行：藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546		
月	外岡秀俊 遺稿集	外岡秀俊 著	2023年1月20日 第1刷発行 発行所 藤田印刷エクセレントブックス 判型 B5変型判(212頁) 印刷・製本 藤田印刷株式会社
日			
冊	借りた場所、借りた時間		定価2,420円(税込) ISBN 978-4-86538-148-1 C0095 ¥2200E

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで